

もり はじ きよてん 森林から創まる「ちくさの拠点」づくり

— みんなで進める地域の基地づくり —

今、人口減少や高齢化が進み、住民の生活に必要なサービスや機能が維持できなくなってきました。

宍粟市では、人口が減少してもみんなで支えあい、地域のつながりで助け合っている暖かいまちづくり、どうすればこの千種に住み続けられるか考えていきたいと考え、「千種生活圏の拠点づくり検討委員会」を下記の皆さんにお願いしました。



委員長	船曳 順市 さん	副委員長	亀井 欣也 さん
委員	藤原 隆 さん	森井 俊二 さん	鳥居 薫 さん
	波多野 好則 さん	杉本 千里 さん	井岡 陽子 さん
	猶原 一典 さん	金本 まみ さん	金本 己世始 さん
	鳥羽 敏美 さん	清水 一女 さん	

委員のみなさんには、生活サービスの維持のことだけでなく、防災、防犯や生きがいづくり、交流の拠点づくりなどいろいろなことを話し合ってください。委員のみなさんよろしくをお願いします。地域のみなさんもサポートをよろしくお願いします。

この事業は、今までのように古くなった建物を建て替えるだけの事業ではありません。みんなが気軽に集まって「こんなことができたらいいよね。」「これがあったら楽しいよね。」と言った皆さんの意見を元に新たな「ちくさの基地」を創っていく事業です。その新たな「基地」を元に未来に向けていっしょに汗をかきましょう。

「千種生活圏の拠点づくり検討委員会」は毎月開催されます。興味のある方は、話を聞きにきてください。また、意見がありましたら、お知り合いの委員さんにお伝えください。詳しい話を聞きたいと思われる方はぜひ「宍粟市役所 地域創生課」か「千種市民局まちづくり推進課」にご連絡ください。皆さんの意見をどしどしお聞かせください。

■ 千種生活圏の拠点づくりに関するお問合せ先

宍粟市役所企画総務部 地域創生課

電話：0790-63-3066

FAX：0790-63-3060

e-mail：chiikisosei-kk@city.shiso.lg.jp

千種市民局まちづくり推進課

電話：0790-76-2210

FAX：0790-76-8020

e-mail：ch-machizukurisuishin-kk@city.shiso.lg.jp



8月8日にセンターちくさで開催されました「第 1 回千種生活圏の拠点づくり検討委員会」では、下記のような意見がでました。

◎第 1 回で出た意見

- （「生活圏の拠点づくり」という考え方を）委員全員が理解していくところから始めなければならないと思う。この千種町をどのようなまちにしていくのが一番いいか、皆さんと知恵を絞りながら考えて行きたい。
- この委員会での意見がどの程度計画に反映されるか分からないが、すでに決まっている部分と、これから決めていく部分を、事務局は明確に示してほしい。
- これから 5 年先、10 年先を考えると農協の A コープや千種高校がなくなっている可能性がある。これらの施設がなくなれば千種町は大変なことになるが、そういったことも考慮しながら、千種のまちづくりはどうあるべきかについて意見を聴かせていただければありがたい。
- 電車がないので、拠点施設にはバスターミナルが必要になる。これからの時代は自動運転などの技術も発達してくるので、様々な可能性を踏まえて考える必要があるのではないか。
- 千草自治会では公民館がなく、総会などはセンターちくさを利用しているので、施設の建替え時は配慮して頂きたい。
- ホールは文化交流の場として大事だと思う。ホールが良ければ演奏会やいろんな人を呼んでイベントも開催できる。良いピアノが設置してあるので、ステージをもう少し広くしてほしい。
- 確定申告のときなど、必要な証明書を揃えるために市民局とエーガイヤを行き来しなくてはならず、高齢の方にはとり忘れもあり、何度も行っていただくことがある。必要な書類をその場で揃えることができる体制を構築してほしい。

以上は第 1 回の委員会で出された意見の一部を抜粋し、要約したものです。全体の会議録をご覧になりたい方は、宍粟市のホームページでご確認頂けます。

■ 宍粟市の「ふれあいミーティング」をご存知ですか？

「生活圏の拠点づくり」などのテーマについてもっと知りたい、市に意見を伝えたいと思われる皆さんは、市の「ふれあいミーティング」制度がご利用いただけます。概ね 10 人以上のグループでお申しいただくと、職員が地域の集会所などへ伺ってご説明や意見の聞き取りをさせていただきます。

地域や職場でご相談いただき、是非、積極的にご活用ください。

詳しいお問合せは秘書広報課(63-3155)又は、表面に記載の各課まで。